

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・EU等で下方修正も、豪州、ロシア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

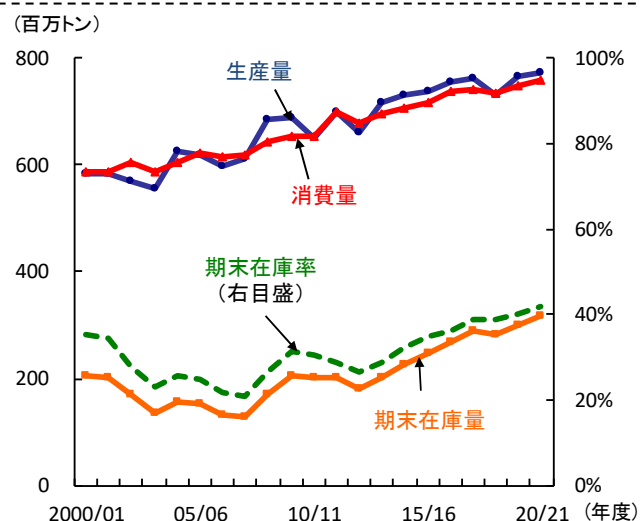
消費量 前年度比 前月比

- ・カザフスタン等で下方修正も、中国、EU、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・カナダ、豪州、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 前月比



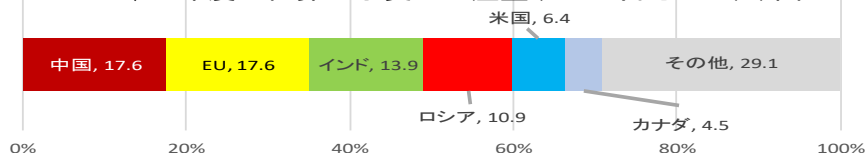
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

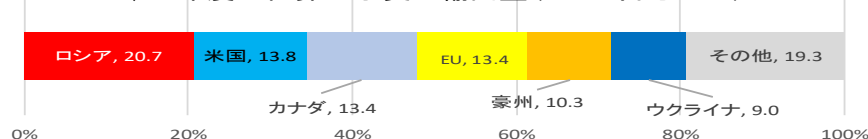
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	730.9	764.5	773.7	1.3	1.2
消 費 量	734.8	748.0	757.8	5.1	1.3
うち飼料用	139.2	139.2	141.0	3.9	1.3
輸 出 量	173.7	191.5	193.7	2.9	1.1
輸 入 量	171.1	185.3	189.2	1.6	2.1
期末在庫量	284.1	300.6	316.5	▲ 4.0	5.3
期末在庫率	38.7%	40.2%	41.8%	▲ 0.8	1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2020)

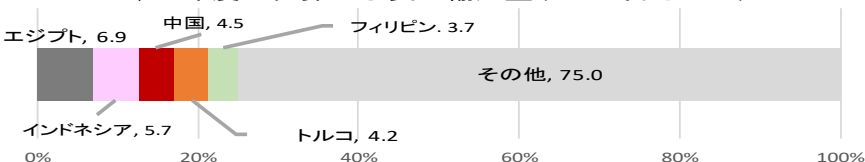
○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(773.7百万トン)(単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(193.7百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(189.2百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.5%減の49.7百万トンの見込み。品種別には、冬小麦は対前年度比11.1%減の31.9百万トン、春小麦は同4.4%増の15.9百万トン、デュラム小麦は同27.5%増の1.9百万トンの見込み。

USDA「Crop Progress」(2020.11.30：2020年最終版)によれば、2020年秋に作付された2021/22年度の冬小麦発芽進捗率は92%と前年度の89%、5年平均の91%を上回っている。また、作柄評価は、多くの生産地で長引く乾燥天候に見舞われており、良～やや良の割合は46%と前週から3ポイント増加したものの、前年度同期の52%を下回っている。コロラド州、テキサス州の作柄評価は、不良の割合がそれぞれ17%、10%と、特に低くなっている。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Market and Trade」(2020.12.10)によれば、9月から3ヵ月連続で上昇していた米国産小麦輸出価格は、世界の生産量の増加見込みから、多くの品種で低下した。

2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.3百万トン上方修正され、26.8百万トンの見込み。品種別には、ハードレッドウィンターが減少したものの、ホワイト小麦が増加した。2020年11月の輸出先国は、フィリピン(16.9%)、メキシコ(14.4%)、中国(11.0%)、日本(9.9%)の順で、特に中国向けが伸びている。

米国の2020/21年度上半期の輸出量は世界の輸入需要の増加から、主にホワイト小麦の輸出(主にアジア市場からの需要の伸び)が増加しており、米国は、ロシア(世界シェア20.7%)に次ぐ第2位の小麦輸出国(同13.8%)となる見込み。

また、期末在庫量は、輸出量の上方修正等から0.4百万トン下方修正され、23.5百万トンの見込みで、中国からの輸入需要も強いことから対前年度比では、16.2%減と2014/15年度以来最低となる見込み。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	30.7	-	0.3
うち飼料用	2.4	2.8	2.7	-	▲ 1.4
輸 出 量	25.5	26.3	26.8	0.3	2.0
輸 入 量	3.7	2.9	3.3	▲ 0.1	14.3
期末在庫量	29.4	28.0	23.5	▲ 0.4	▲ 16.2
期末在庫率	53.0%	49.2%	40.8%	▲ 0.9	▲ 8.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2020年11月			2020年1月～11月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
フィリピン	29.8	16.9	フィリピン	306.6	12.9
メキシコ	25.4	14.4	メキシコ	267.7	11.2
中国	19.4	11.0	日本	246.5	10.4
日本	17.5	9.9	中国	177.7	7.5
台湾	9.8	5.6	ナイジェリア	139.7	5.9
その他	74.4	42.2	その他	126.3	5.3
合計	176.4	100	合計	2380.8	100.0

注1. 11月の輸出検証高は、11月12、19、26日及び12月3日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月3日の合計

資料：USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2020年12月11日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ統計局「Production of principal field crops.November 2020」(2020.12.3)によれば、2020/21 年度の生産量は、単収と収穫面積の増加により平原三州の生産量が増加し、前年度より 7.7%増加の 35.2 百万トンの見込み。

主要生産州の生産状況は、サスカチュワン州では、単収が 1.8%、収穫面積が 2.2%増加したことから、生産量は前年度に比べ 4.1%増加し、16.0 百万トン、アルバータ州では、単収が 6.7%、収穫面積が 0.9%増加したことから、生産量は前年度に比べ 7.6%増加し、11.0 百万トン、マニトバ州では、単収が 0.8%、収穫面積が 3.5%増加したことから、生産量は前年度に比べ 4.4%増加し、5.3 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 7.7%増の 35.2 百万トンと、2013/14 年度以来の豊作となる見込み。なお、カナダ産春小麦の平均単収は史上最高の 3.6 トン/ヘクタール。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2020.12.10)によれば、輸出価格は、カナダの実産量の上方修正により、11 月 6 日時点の 269 ドル/トンから 12 月 5 日時点で 265 ドル/トンに下落した。

また、2020/21 年度の実輸出量は、好調な中国向け輸出から、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、対前年度比 5.6%増の 26.0 百万トンの見込み。カナダは、2020 年 1 月から 4 月までの間、世界最大の輸出国となった。また、2020/21 年度の実 2020 年 7 月から 9 月では、カナダは米国とともに中国向けの最大の輸出国であった。2020/21 年度は、豊作も輸出量が増加するため、期末在庫量は前年度並みの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 10 月までの普通小麦の実輸出量は 513.9 万トンで、国別では、中国(66.2 万トン)、インドネシア(57.2 万トン)、日本(53.9 万トン)の順。

また、同期間のデュラム小麦の実輸出量は 109.3 万トンで、イタリア(33.0 万トン)、モロッコ(30.5 万トン)、ベルギー(8.1 万トン)の順である。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.4	32.7	35.2 (34.1)	0.2	7.7	
消 費 量	9.2	9.3	9.6 (8.7)	▲ 0.1	3.7	
うち飼料用	4.2	4.2	4.4 (4.1)	▲ 0.1	5.8	
輸 出 量	24.4	24.6	26.0 (24.8)	1.0	5.6	
輸 入 量	0.5	0.7	0.5 (0.2)	-	▲ 33.8	
期末在庫量	6.0	5.5	5.5 (6.3)	▲ 0.7	0.5	
期末在庫率	18.0%	16.2%	15.5% (18.8%)	▲ 2.5	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	10.02 (9.88)	0.12	3.7	
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.51 (3.46)	▲ 0.03	3.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 November 2020)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2020/21年度(2020年8月～2021年 7月)の8月～10月

	普通小麦			デュラム小麦		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	66.2	12.9	イタリア	33.0	30.2
2	インドネシア	57.2	11.1	モロッコ	30.5	27.9
3	日本	53.9	10.5	ベルギー	8.1	7.4
4	ペルー	42.9	8.3	日本	5.0	4.6
5	バングラデシュ	39.3	7.6	チュニジア	4.7	4.3
6	その他	254.4	49.5	その他	28.0	25.6
計		513.9	100.0	計	109.3	100.0

注1:Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2普通小麦の：品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter
No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter,デュラムはCanadaWestern Amber Durum 0
資料:Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.5百万トン上方修正され、対前年度比97.4%増の30.0百万トンとなる見込み。

一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.12.1)では、2020/21年度の実生産量は前年度に比べ105.5%増加し、史上2番目となる31.2百万トンの見込み(前回9月予測は28.9百万トン)。

2020/21年度は、2020年8月から10月にかけての降水量が、NSW州、SA州等のほとんどの生産地域で平均を大きく上回った。一方で、同年10月に厳しい降雨不足となったWA州では、平年以下の降水量となり降雨不足は深刻であった。

主要生産州別には、WA州で、単収、作付面積の増加から、生産量は前年度比41.0%増の8.2百万トンの見込みで、作期終盤の降雨と冷涼な天候で収穫が遅れ、僅かな品質低下懸念がある。NSW州で、単収が史上最高、作付面積が前年度の2倍となり、生産量は12.2百万トンと史上最高の見込み。SA州で、単収、作付面積の増加により、生産量は同53%増の4.9百万トンの見込みで、品質は良好と見られている。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2020.12.10)によれば、豪州の輸出価格は生産量の上方修正や、中国からの需要減から253ドル/トン(12月5日時点)へ下落。豪州は、2016/17年度からの生産量の減少で主要輸出先であった東南アジア市場の輸出シェアを黒海諸国に奪われた。2020/21年度は、輸出余力の増加のため、東南アジア市場の再獲得や新たなアジアや他の地域の市場の開拓が期待されている。現在、アフリカや中東では価格競争力があるが、地理的に有利なEUや黒海諸国と競うには豪州産は引き続き低価格であることが必要となっている。

ABARES「Agricultural commodities」(2020.12.7)によれば、2020/21年度の輸出量は、前年度の倍以上の21百万トンとなる見込み。前年より生育条件に恵まれたことによる生産量の増加や、飼料用需要が減少したことで、国内価格が低下し、輸出量が増加する見込み。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

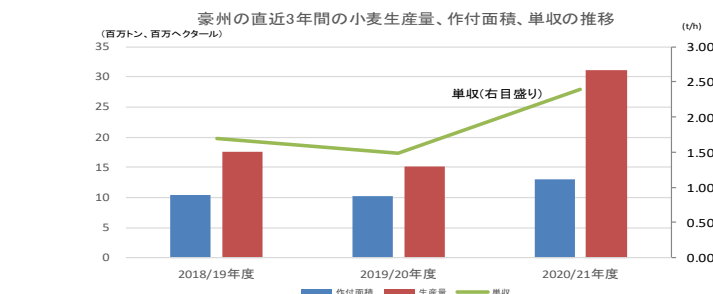
(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	17.6	15.2	30.0	(29.3)	1.5	97.4
消費量	9.2	8.5	8.0	(7.8)	0.5	▲ 5.9
うち飼料用	5.7	5.0	4.5	(4.2)	0.5	▲ 10.0
輸 出 量	9.0	9.1	20.0	(19.4)	1.0	118.8
輸 入 量	0.5	0.9	0.5	(0.3)	0.3	▲ 43.8
期末在庫量	5.4	3.9	6.4	(5.9)	0.7	64.1
期末在庫率	29.9%	22.1%	22.9%	(21.6%)	1.4	0.7

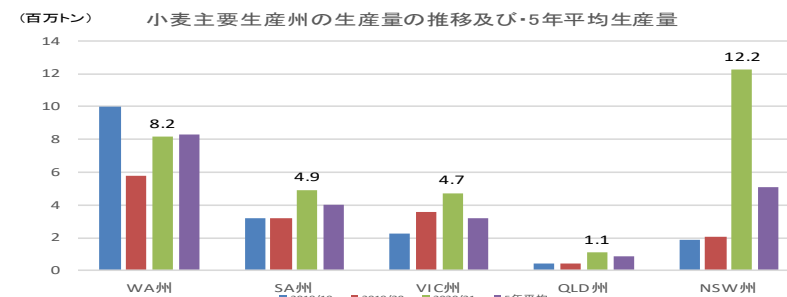
(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00	(29.3)	-	27.5
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.31	(2.25)	0.12	55.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)



資料: 豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.12.1)をもとに農林水産省で作成



資料: 豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2020.12.1)をもとに農林水産省で作成

(※)NSW州: ニューサウスウェールズ州 WA州: ウェスタンオーストラリア州 QLD州: クイーンズランド州 SA州: サウスオーストラリア州

< EU >

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2020.11.26)によれば、2020/21 年度の生産量(EU27)は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 124.1 百万トンの見込み。品種別には、普通小麦は、スペインで上方修正されたものの、フランス等で下方修正されたことから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 116.7 百万トン、デュラム小麦は、イタリア等で上方修正されたことから、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 7.3 百万トン。また、AMIS「Market Database Supply and Demand Overview」(2020.12.4)によれば、英国の生産量は 10.1 百万トンの見込み。

フランスアグリメールによれば、12 月 4 日現在、フランス産小麦の品質評価は、「優良から良」が 96%と、前年度(73%)を上回っている。

なお、USDA によれば、2020/21 年度の生産量(EU27+英国)は、収穫面積と単収が下方修正されたことから、前月予測より 0.8 百万トン下方修正され、対前年度比 12.1%減の 135.8 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の生育状況は、11 月下旬以降、欧州の大部分で平年より気温が低い傾向が続き、冬小麦は休眠期に入った。フランスでは、12 月上旬に降雨があり土壌水分は回復。ドイツでは 11 月下旬から乾燥が続いているが、10 月の降雨で土壌水分量は保たれている。欧州全体では 10 月に十分な量の降雨があったことから、土壌水分量が高く、穀物の全体的な生育状況は良い。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2020.12.10)によれば、EU の輸出価格は 2021 年のフランスの収穫量が回復する見込みから 257 ドル/トンへ僅かに下落した。2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 32.3%減の 26.0 百万トンの見込み。

2020 年 9 月の EU(27 ヶ国)の普通小麦の輸出先国は、サウジアラビア(14.5%)、中国(11.7%)、アルジェリア(11.7%)。また、デュラム小麦の輸出先国はコートジボワール(14.8%)、モーリタニア(13.0%)、サウジアラビア(9.3%)の順。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.6	154.5	135.8 (123.0)	▲ 0.8	▲ 12.1
消 費 量	121.1	122.5	118.5 (104.4)	0.5	▲ 3.3
うち飼料用	51.5	52.5	49.0 (41.0)	0.5	▲ 6.7
輸 出 量	23.3	38.4	26.0 (26.2)	－	▲ 32.3
輸 入 量	5.8	4.8	6.0 (6.4)	0.3	25.0
期末在庫量	15.9	14.3	11.6 (10.6)	▲ 1.4	▲ 18.9
期末在庫率	11.0%	8.9%	8.0% (8.1%)	▲ 1.0	▲ 0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	25.52	26.12	24.61 (22.76)	▲ 0.05	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.35	5.91	5.52 (5.40)	▲ 0.02	▲ 6.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 December 2020) 表内のデータは EU27+英国
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020) ()内は EU27 ヶ国のデータ

2020年9月のEU(27ヶ国)の普通小麦の輸出国、輸出先国

輸出国	輸出量	シェア(%)	輸入国	輸入量	シェア(%)
リトアニア	45.8	22.5	サウジアラビア	29.5	14.5
ラトビア	44.6	21.9	中国	23.9	11.7
フランス	44.6	21.9	アルジェリア	23.8	11.7
ポーランド	26.1	12.8	南アフリカ	23.4	11.5
ルーマニア	15.5	7.6	モロッコ	15.5	7.6
その他	27.4	13.4	その他	87.9	43.1
合 計	204.0	100.0	合 計	204.0	100.0

2020年9月のEU(27ヶ国)のデュラム小麦の輸出国、輸出先国

輸出国	輸出量	シェア(%)	輸入国	輸入量	シェア(%)
フランス	2.8	51.9	コートジボワール	0.8	14.8
スペイン	1.3	24.1	モーリタニア	0.7	13.0
イタリア	0.9	16.7	サウジアラビア	0.5	9.3
ドイツ	0.2	3.7	モロッコ	0.4	7.4
ギリシャ	0.1	1.9	アルジェリア	0.4	7.4
その他	0.1	1.9	その他	2.6	48.1
合 計	5.4	100.0	合 計	5.4	100.0

輸出量、輸入量は万トン

資料：欧州委員会「EU Cereals export and impor」(2020.11.17)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧食情報センター(2020.12.4)によれば、2020/21 年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.3%増の 134.0 百万トン。品種別には、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ 126.6 百万トン、7.4 百万トンの見込み。

中国国家统计局「2020全国糧食生産量データ」(2020.12.10)によれば、2020/21年度の小麦の作付面積は23.38百万ヘクタール(対前年度比1.5%減)と減少するものの、単収は5.7トン/ヘクタール(対前年比2.0%増)に増加することから、生産量は134.3百万トン(対前年度比0.5%)に増加する見込み。

中国気象台によれば、2021/22年度の冬小麦の生育状況は、冬小麦産地の大部分が分げつ期に入っており、甘粛省、陝西省、河北省の一部は休眠期、四川、貴州省等では三葉から分げつ期である。作柄は、一、二類苗の比率がそれぞれ21%と78%となっており、前年度の21%、79%に比べると、一類苗の比率は前年並み、二類苗は1ポイント低下している。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(10月)によれば、とうもろこし価格の上昇で、小麦の飼料用需要が増加し、国内の小麦価格は上昇している。

USDA によれば、飼料用消費量は、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され 24.0 百万トン。中国政府は、国家備蓄の小麦売却を実施しているため、とうもろこしが不足している国内飼料メーカーは、小麦、大麦等の使用割合を増加させている。

輸入量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、1995/96 年度以来最高の 8.5 百万トンの見込み。中国海関統計(2020.11.25)によれば、2020 年 1 月から 10 月の小麦の輸入量計は、前年同期に比べ 2.8 倍の 647.5 万トン。2020 年の輸入先国はカナダ、フランス、米国の順である。2020 年の輸入量を前年同期と比較すると、2019 年は主にカナダから輸入(シェア:70.7%)していたが、2020 年はフランス(同 27.6%)、米国(同 17.6%)、豪州(同 16.7%)がシェアを伸ばしている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	131.4	133.6	136.0 (135.0)	-	1.8	
消 費 量	125.0	126.0	134.0 (132.0)	3.0	6.3	
うち飼料用	20.0	19.0	24.0 (21.0)	3.0	26.3	
輸 出 量	1.0	1.1	1.0 (1.3)	-	▲ 4.8	
輸 入 量	3.2	5.4	8.5 (7.9)	0.5	58.0	
期末在庫量	139.8	151.7	161.2 (139.8)	▲ 2.5	6.3	
期末在庫率	110.9%	119.4%	119.4% (104.9%)	▲ 4.6	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	24.00 (23.8)	-	1.1	
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.67 (5.42)	-	0.7	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)

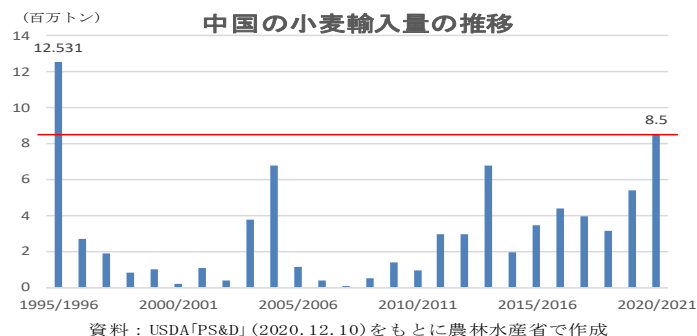


表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移 (2019年1月～10月、2020年1月～10月)

	2019年1月～2019年10月			2020年1月～2020年10月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	カナダ	150.3	65.0	カナダ	189.7	29.3
2	カザフスタン	34.0	14.7	フランス	178.8	27.6
3	フランス	24.8	10.7	米国	114.2	17.6
4	豪州	14.5	6.3	豪州	108.2	16.7
5	米国	4.2	1.8	リトアニア	33.3	5.1
6	その他	3.3	1.4	その他	23.4	3.6
	計	231.2	100.0	計	647.5	100.0

出典: 中国海関統計(2020.11.25)をもとに農林水産省で作成

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、2020/21年度の冬小麦及び春小麦は、収穫面積 28.90 百万ヘクタール、単収 3.05 トン/ヘクタールで、収穫量(品質調整前)は、88.1 百万トン(12月10日時点)。収穫進捗率は99.8%。USDAによれば、生産量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され84.0百万トン。冬小麦、春小麦とも単収が前月より上方修正され、生産量はそれぞれ58.8百万トン、25.2百万トンの見込み。

ロシア国営「穀物品質評価センター」のサンプル調査によれば、小麦の品質(11月30日時点)は、調査対象(36.7百万トン)のうち、主に食用となる1~4等の比率は72.2%となり前年同日(78.9%)を下回ったが、前月に比べると若干改善された。

ロシア農業省によれば、2021/22年度の冬小麦を含む穀物の播種面積は、12月10日現在、予定面積(19.18百万ヘクタール)の100.6%の19.30百万ヘクタールである。

2020年11月は、ロシア・ヨーロッパ地域では、生育段階は子葉形成期から分げつ期となり、北部で気温が低下し休眠期に入った。同地域の南部では、乾燥状態が続いていたが、上旬から中旬の降雨で土壌水分が改善された。ロシア・アジア地域では、概ね分げつ期で、作柄は並から良好の見込み。

【貿易情報・その他】ロシア連邦統計局によれば、2020年11月1日時点のロシア国内小麦の在庫量は前年同日比12%増と高水準であるものの、パン類、パスタ類の国内価格は上昇している。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月から0.5百万トン上方修正され、対前年度比16.0%増の40.0百万トン。ロシア税関によれば、2020年10月の輸出量は9月に比べ減少したものの、過去3年間の同時期に比べて最も多く458万トン。輸出先国は、エジプト(30.7%)、トルコ(16.8%)、パキスタン(24.7%)の順。

ロシア政府は、2021年2月15日~6月30日まで小麦を含む穀物の輸出枠を1,750万トンに設定。また、同期間、同枠内の小麦に対しても25ユーロ/トンの輸出税の課税を決定(概要編P1「2020年12月の主な動き」参照)。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	84.0	(83.5)	0.5	14.1
消費量	40.5	40.0	41.0	(42.9)	-	2.5
うち飼料用	18.0	17.0	18.0	(18.7)	-	5.9
輸 出 量	35.9	34.5	40.0	(38.9)	0.5	16.0
輸 入 量	0.5	0.3	0.5	(0.3)	-	51.5
期末在庫量	7.8	7.2	10.7	(11.0)	-	48.4
期末在庫率	10.2%	9.7%	13.2%	(13.4%)	▲ 0.1	3.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.60	(28.6)	-	4.7
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.94	(2.92)	0.02	8.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

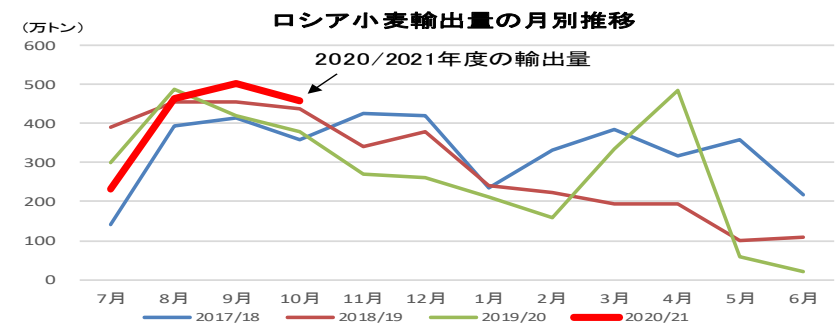
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)

表 ロシアの小麦輸出先国(シェア)(2020年10月、2020年7月~2020年10月)

	2020年10月			2020年7月~2020年10月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	140.8	30.7	エジプト	331.1	20.0
2	トルコ	76.8	16.8	トルコ	305.6	18.4
3	パキスタン	24.7	5.4	バングラデシュ	108.7	6.6
4	スーダン	21.9	4.8	アゼルバイジ	72.4	4.4
5	不明	15.1	3.3	ナイジェリア	66.2	4.0
6	その他	178.7	39.0	その他	774.3	46.7
計		458.0	100.0		1658.4	100.0

(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成



資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成(ユーラシア経済同盟加盟国への輸出も含む)

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナで上方修正も、アルゼンチン、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

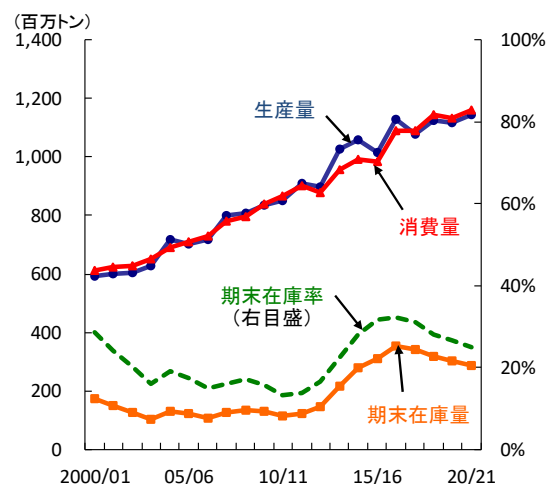
消費量 前年度比  前月比 

- ・EU等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

- ・EUで下方修正も、ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2020.12.10)をもとに農林水産省にて作成

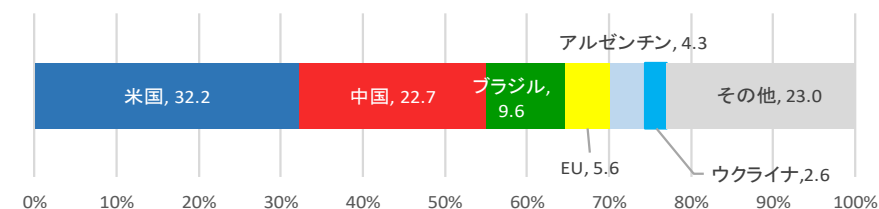
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

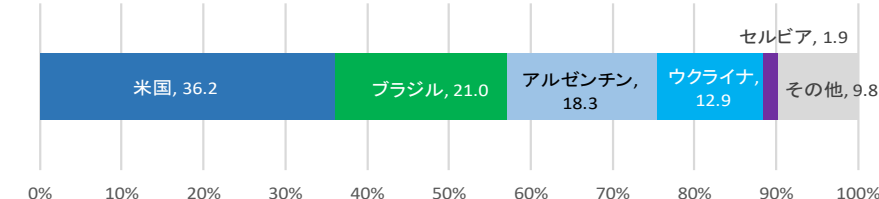
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,123.4	1,116.2	1,143.6	▲ 1.1	2.5
消費量	1,144.3	1,132.6	1,158.0	1.5	2.2
うち飼料用	703.4	712.9	728.0	2.3	2.1
輸 出 量	181.7	171.3	186.0	1.2	8.6
輸 入 量	164.4	165.3	179.6	1.3	8.6
期末在庫量	319.8	303.4	289.0	▲ 2.5	▲ 4.8
期末在庫率	28.0%	26.8%	25.0%	▲ 0.2	▲ 1.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2020)

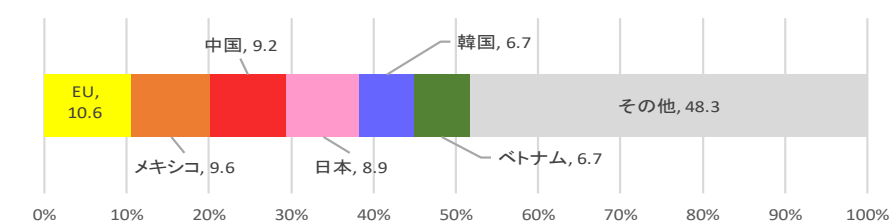
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,143.6百万トン)(単位：%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(186.0百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(179.6百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より6.5%増の368.5百万トンの見込み。11月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要は減少するものの、エタノール用需要が増加することから、前年度より0.5%増の309.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より49.0%増の67.3百万トンと史上最高の見込み。中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に減少することが背景である。

なお、輸出検証高(2020年1月2日～12月3日)は、44.8百万トンであり、内訳はメキシコ(12.9百万トン)、日本(9.4百万トン)、中国(5.6百万トン)、コロンビア(4.7百万トン)の順である。11月の輸出検証高では、計3.4百万トンのうち、中国が1.2百万トンと第1位の輸出先となっている。

とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

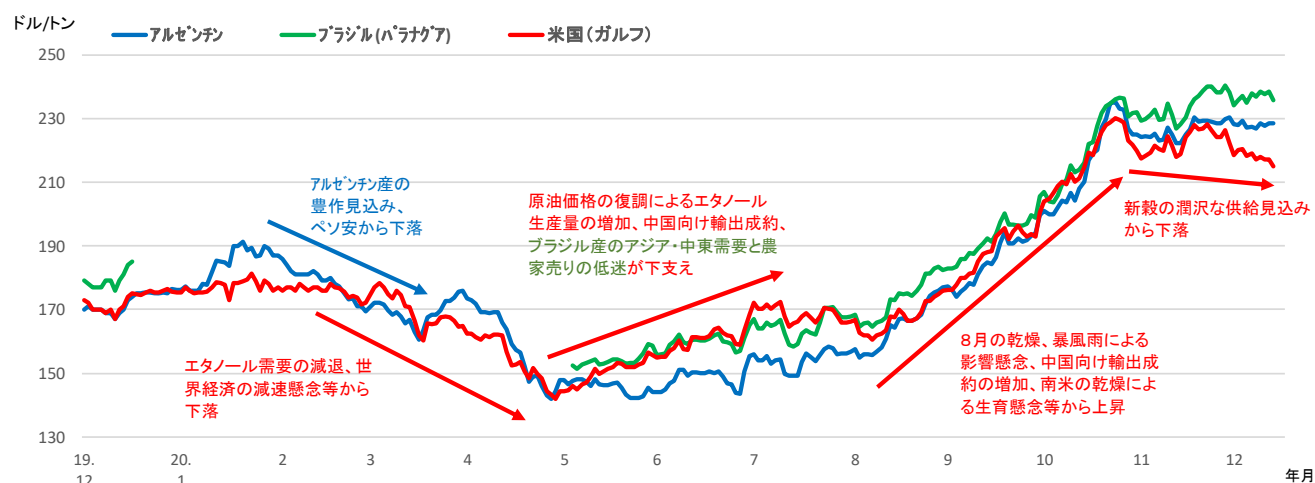
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	364.3	346.0	368.5	－	6.5
消費量	310.5	307.6	309.3	－	0.5
うち飼料用	137.9	148.0	144.8	－	▲ 2.2
エタノール用等	136.6	123.2	128.3	－	4.1
輸 出 量	52.5	45.2	67.3	－	49.0
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	－	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	50.7	43.2	－	▲ 14.7
期末在庫率	15.5%	14.4%	11.5%	－	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.40	－	1.5
単収(t/ha)	11.07	10.51	11.03	－	4.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.8%増の110.0百万トンとなり、史上最高の見込み。深刻な干ばつ状態にあった南部の夏とうもろこしの主産地に11月末から12月中旬にかけて待望の降雨があり、土壌水分が供給された。12月上旬には中部から南東部の広い産地で降雨があった。南部のパラナ州では、12月14日現在で夏とうもろこしの登熟に向けた開花率は62%となっている。南部のリオグランデドスル州では、12月17日現在で作付け進捗率は89%となっている。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2020.12.10)によれば、現在作付け終盤の2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延の影響もあり、作付面積、単収ともに前年度より減少することから前年度比5.8%減の24.2百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は78.4百万トンが見込まれ、合計では前年度比0.1%増の102.6百万トンと史上最高の見込み。(P.20 大豆—ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.2%増の70.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.4%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～11月の累計輸出量は29.8百万トンで、前年度と比べ23%減となっている。内訳は、1位が日本で4.0百万トン、2位がイランで3.8百万トン、3位がベトナムで3.0百万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

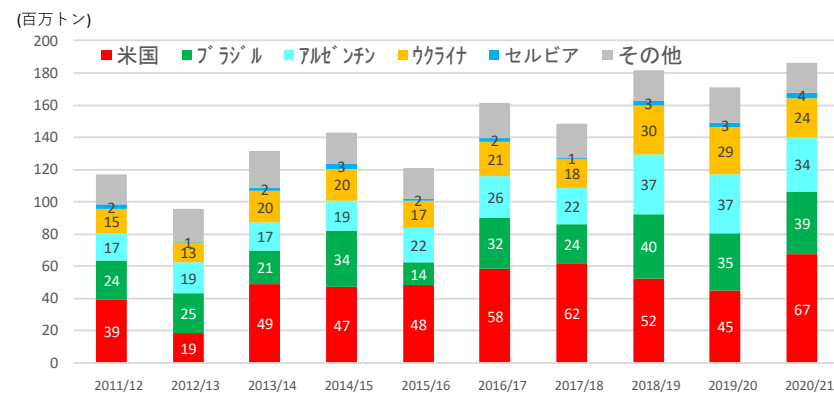
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	102.0	110.0	(112.5)	-	7.8
消 費 量	67.0	68.5	70.0	(73.8)	-	2.2
うち飼料用	57.0	58.5	60.0	(54.5)	-	2.6
輸 出 量	39.7	35.0	39.0	(38.0)	-	11.4
輸 入 量	1.7	1.2	1.5	(0.8)	-	25.0
期末在庫量	5.3	5.0	7.5	(8.2)	▲ 0.5	50.1
期末在庫率	5.0%	4.8%	6.9%	(7.3%)	▲ 0.5	2.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.50	(19.70)	-	5.4
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.64	(5.71)	-	2.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2020. 12. 10) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、ラニーニャ現象による乾燥天候のため、作付けが遅れ、作付けの一部が投入コストの少ないソルガムの作付けへ変更されたことから主に収穫面積が下方修正され、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年度より 3.9%減の 49.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2020. 12. 17）によれば、作付進捗率は 55%で、過去 5 年平均より 6 ポイントの遅れ。北西部および北東部の地域における作付け作業が降雨により進展した。中央部および南部の地域では予定よりも遅れており、降雨がある度に作業が進捗しているが、新たな降雨を待つ間、徐々にペースが落ちている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 8.1%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020 年 1～10 月の輸出量は 34.5 百万トンで、前年同期より 9.7%増。内訳は、1 位がベトナム 7.5 百万トン、2 位がエジプト 3.6 百万トン、3 位がアルジェリア 3.1 百万トン。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げた。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	51.0	49.0	(54.3)	▲ 1.0	▲ 3.9
消 費 量	13.8	13.5	15.0	(21.3)	-	11.1
うち飼料用	9.7	9.5	11.0	(16.7)	-	15.8
輸 出 量	37.2	37.0	34.0	(32.5)	-	▲ 8.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	2.9	2.9	(4.9)	-	0.3
期末在庫率	4.6%	5.7%	5.9%	(9.1%)	-	0.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.10	(7.40)	▲ 0.10	▲ 3.2
単収(t/ha)	8.36	8.10	8.03	(7.34)	▲ 0.03	▲ 0.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景
(12 月 5 日撮影)
10 月末～11 月の降雨が生育を促し、作柄は
良好で開花期に入っている。



< 中国 >

【生育・生産状況】中国国家统计局「2020 全国糧食生産量データ」(2020.12.10) によれば、2020 年の生産量は前年並みの 260.7 百万トンの見込み。

USDA によれば、2020/21 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 0.3% 減の 260.0 百万トンの見込み。11 月上旬時点で、東北部の春とうもろこし、河北省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の実消費量は、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が前月予測から 3.5 百万トン上方修正され、前年度より 2.7% 増の 285.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国国家発展改革委員会は、2020 年 9 月 17 日に 2021 年の低関税（最低 1%）適用の輸入枠を 2020 年（7.2 百万トン）と同量に据え置くと発表した。

USDA によれば、2020/21 年度の実輸入量は、国内とうもろこし価格が高止まりする中、国内の家畜の飼養頭数と食肉生産量の増加により飼料用消費が旺盛なことから、前月予測から 3.5 百万トン上方修正され、前年度より 117.1% 増の 16.5 百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～10 月の輸入量は 7.8 百万トンで、前年同期の 2 倍。従来からの輸入先であるウクライナ産 5.0 百万トン（64%）が依然として最も多いが、ウクライナ産とうもろこしの高温乾燥による減産と旺盛な飼料用需要もあり、米国産が 2.5 百万トン（32%）と 8 月以降急激にシェアを伸ばしている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、東北部では生育前半の台風による倒伏の影響から農家の収穫コストが増大。10 月の国内流通価格は、市場における流通量が少なく、とうもろこし加工業者は積極的に仕入れているが、農家は今後の値上がりを見込んで売却に消極的なことから、2,560 元/トンと上昇し、高値で推移している。一方、外国産の価格上昇も続いていることから、内外価格差は縮小している。

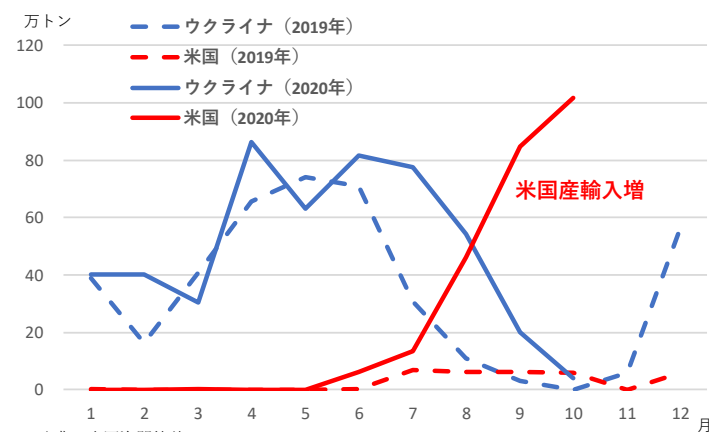
とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	257.2	260.8	260.0 (258.0)	-	▲ 0.3	
消 費 量	274.0	278.0	285.5 (288.6)	3.5	2.7	
うち飼料用	191.0	193.0	198.5 (184.0)	3.5	2.8	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0	
輸 入 量	4.5	7.6	16.5 (15.0)	3.5	117.1	
期末在庫量	210.2	200.5	191.5 (175.8)	-	▲ 4.5	
期末在庫率	76.7%	72.1%	67.1% (60.9%)	▲ 0.8	▲ 5.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	42.00 (41.50)	-	1.7	
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.19 (6.22)	-	▲ 2.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report」(26 November 2020)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典: 中国海関統計

注: 2020 年 1 月分と 2 月分は合計で公表されたため、便宜上 1/2 で按分